

## 特別活動 学習指導案

学習者 附属小学校6年1組 33名

授業者 蔦谷 友之

題材名 ありたい中学生（4月の自分）の姿に向けて成長していきたいことを考えよう  
（学級活動（3）ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成）

### 1. 題材の目標

- （1）中学校生活に向けて、希望や目標をもつことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、具体的な行動の在り方を身に付けるようにする。
- （2）中学校生活に向けて、よりよく生きるための自己の生活や学習の課題を見出し、付けたい力や具体的な行動目標などについて話し合う活動を通して、自分に合った解決方法を意思決定し、進んで行動することができるようにする。
- （3）現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

### 2. 題材の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよ くしようとする態度
中学校生活に向けて、希望や目標をもつことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	中学校生活に向けて、希望や目標をもつことについて、よりよく生きるための自己の課題を認識し、付けたい力や具体的な行動目標などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

### 3. 指導と評価の計画（3時間）

時	ねらい（◆）と主な学習活動（○）	評価規準〈評価方法〉 指導の改善に生かす評価「・」 総括資料とするための記録に残す評価「○」		
		知・技	思・判・表	主体
事前 モジュール	≪本題材に関連する事前の学習活動≫ 学活（1）「ありたい集団の姿（学級テーマ）について考えよう」 学活（3）「ありたい自分の姿（自己テーマ）について考えよう」 朝の会 「6-1の仲間について一番の理解者になろう（質問タイム）」 帰りの会 「友達の頑張りと成長を伝え合おう（ほめほめフィーバー）」			
	◆自己テーマをもとに、ありたい中学生（4月の自分）の姿に向けて成長していきたいことを具体的に考え、卒業までの学校生活に対する見通しをもつことができるようにする。			
事前 ※定期的に	○自己テーマの実現に向けた具体的な行動目標や頻度・期間について考え、自己実現シートに記述する。 ○振り返りの方法を話し合い、決定する。 ※1～3月の期間で、自分が意思決定した行動目標について実践を重ねる。振り返りを定期的に行い、取組を継続的・発展的に進められるようにする。			
	◆定期的に具体的な行動目標について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返り、取組内容を更新・修正することができるようにする。			
事前 学活（3）	○自己実現シートをもとに、具体的な行動目標について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返る。 ○具体的な行動目標を更新・修正し、その設定理由を自己実現シートに記述する。 ○一人一人の取組の進捗について、グループの仲間と交流する。			
	◆取組を通して付いた力について振り返り、自己の成長を実感できるようにするとともに、自己テーマに対するスケールチャートを作成し、更なる継続的・発展的な取組への意欲を高めることができるようにする。			
事前 モジュール	○取組を通して付いた力を、成長ノートに書き出す。 ○付いた力ベスト3を各自が板書し、学級全体で共有する。 ○自己テーマに対するスケールチャートを作成し、現在地を確認する。 ○本時の振り返りをして、卒業までの期間でさらに頑張っていきたいことについて見通しをもつ。			
	・〈行動分析〉 〈記録分析〉			
事前 モジュール	◆自己テーマの実現に向けた取組を、更に加速させていくための工夫について話し合い、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を実践できるようにする。			
	○自己テーマの実現に向けた取組を更に発展させたり、具体的な行動目標の達成に対する意識を更に高めたりすることができる工夫について、学級全体で考えを出し合う。 ○自分に合った課題解決の方法を選択し、実践する。			
事前 モジュール	◆自己テーマの実現に向けた取組を、更に加速させていくための工夫について話し合い、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を実践できるようにする。			
	○自己テーマの実現に向けた取組を更に発展させたり、具体的な行動目標の達成に対する意識を更に高めたりすることができる工夫について、学級全体で考えを出し合う。 ○自分に合った課題解決の方法を選択し、実践する。			

本時 学活 (3)	◆自己テーマの実現に向けた取組を、自分自身や友達の工夫について「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返ったり、よりよい取組に繋げるための方法について話し合ったりする活動を通して、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を意思決定し、進んで実践することができるようにする。			
	○自己実現シートをもとに、具体的な行動目標や課題解決の方法について振り返る。 ○各自の課題解決の方法について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で、実践を通して考えたことを出し合う。 ○自己テーマの実現に向けた取組を更に発展させたり、具体的な行動目標の達成に対する意識を更に高めたりすることができる工夫について、学級全体で考えを出し合う。 ○自分の思いや願いに合った課題解決の方法を選択し、実践する。	・〈記録分析〉	・〈発言分析〉 〈行動分析〉 〈記録分析〉	・〈発言分析〉 〈行動分析〉 〈記録分析〉
事後 ※定期的に	◆定期的に、具体的な行動目標や、課題解決の方法について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返り、取組内容を更新・修正することができるようにする。			
	○自己実現シートをもとに、具体的な行動目標や課題解決の方法について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返る。 ○具体的な行動目標や課題解決の方法を更新・修正し、その設定理由を自己実現シートに記述する。 ○一人一人の取組の進捗について、グループの仲間と交流する。			
事後 学活 (3)	◆スケールチャートを活用し、取組を通して付いた力について振り返り、自己の成長を実感できるようにするとともに、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとすることができるようにする。			
	○取組を通して付いた力を、成長ノートに書き出す。 ○付いた力ベスト3を各自が板書し、前回の板書と比較する。 ○自己テーマに対するスケールチャートを作成し、現在地を確認する。 ○取組の振り返りをする。ありがたい中学生(4月の自分)の姿に向けて、これから頑張っていきたいことについても考える。	・〈記録分析〉	・〈記録分析〉	・〈記録分析〉

#### 4. 本時の指導（2／3）

本時のねらい	自己テーマの実現に向けた取組を、自分自身や友達の工夫について「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で振り返ったり、よりよい取組に繋げるための方法について話し合ったりする活動を通して、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を意思決定し、進んで実践することができるようにする。
評価規準	自己テーマの実現に向けた取組について、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を意思決定し、進んで実践している。
具体的な児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行動目標を達成できるように取組を毎日続けていきたいから、振り返りシートを作って毎日振り返りができるように工夫してみよう。」</li> <li>・「残りの日数でありたい中学生の姿にさらに近づいていきたいから、具体的な行動目標の内容を見直そう。」</li> </ul>

時間	児童の活動	○指導及び・留意点【選択・決定】【当事者意識】 ※支援を要する児童への手立て ◎評価〈方法〉
3分	1. 本時のめあてを立てる。	<p>○本時のめあてとその提案理由について、学級委員から提案できるようにする。</p> <p>・集団の自己調整として、年間を通して、自分達で生活上の問題を発見し、その解決方法について、主体的に話し合いの場をもったり、実践したりする活動を重ねてきた。そのため、本時においても、自己テーマに関連する活動の提案者である学級委員が、適宜ファシリテーターとして進行していくようにする。</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて ありたい中学生（4月の自分）の姿に向けて、取組をレベルアップしよう。</div>
7分	2. 自己実現シートに振り返った内容を、グループの友達と交流する。	<p>○自己実現シートに振り返った内容を言語化することで、自己理解を深め、自己変容を捉えることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【当事者意識】</p> <p>・グループで交流した後、全体場で数名の児童が発表できるようにする。前時に意思決定した課題解決の方法についての振り返りに目が向いてきたところで、次の学習活動に移行できるようにする。</p>
20分	3. よりよい課題解決の方法について、実践を通して考えたことを学級全体で話し合う。	<p>○各自の課題解決の方法について、「なぜ、うまくいったのか」「なぜ、うまくいかなかったのか」という視点で、実践を通して考えたことを出し合うことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【当事者意識】</p> <p>・自分自身の振り返りだけでなく、他者評価として、友達の取組についても考えを出し合うことができるようにする。</p> <p>・新たな課題解決の方法についても、考えを出し合うことができるようにする。</p> <p>◎現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。〈発言分析〉</p>
10分	4. 自分に合った課題解決の方法を選択し、実践する。	○自己テーマの実現に向けて、自分の思いや願いに合った課題解決の方法を意思決定し、進んで行動することができるようにする。

		<p>【選択・決定】【当事者意識】</p> <p>※なかなか意思決定できない児童には、本人の思いや願いを確認した上で、グループの仲間などにアドバイスをもらえるよう促し、できる限り友達同士の関わりの中で解決できるよう支援する。</p> <p>◎自己実現を図るために必要な課題解決の方法について考え、自分の思いや願いに合った意思決定をし、進んで実践している。〈行動分析〉</p>
5分	5. 本時の振り返りを行う。	<p>○本時の振り返りを行い、これからの継続的・発展的な取組に向けた見通しをもつことができるようにする。</p> <p>・成長ノートに振り返りを記述するようにする。</p> <p>◎希望や目標をもって生活を創造していくことの意義を理解している〈記録分析〉</p>